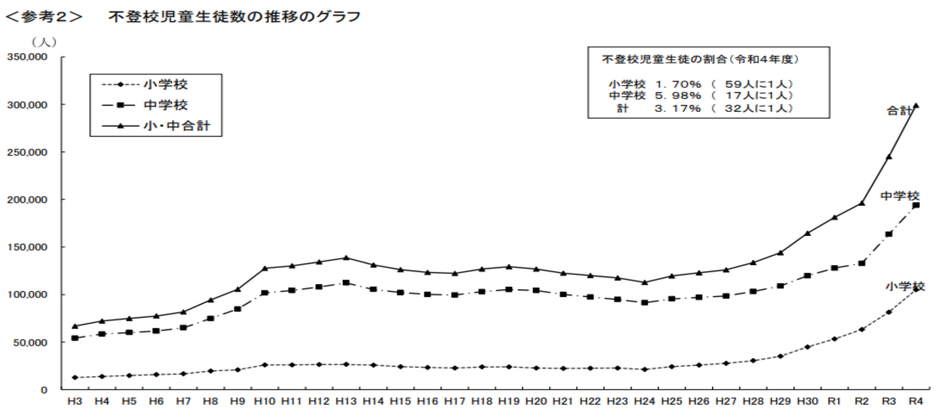
学校に行きづらさを感じる生徒に対する別室支援のあり方
―自己肯定感を高める取り組みに視点を当てて―

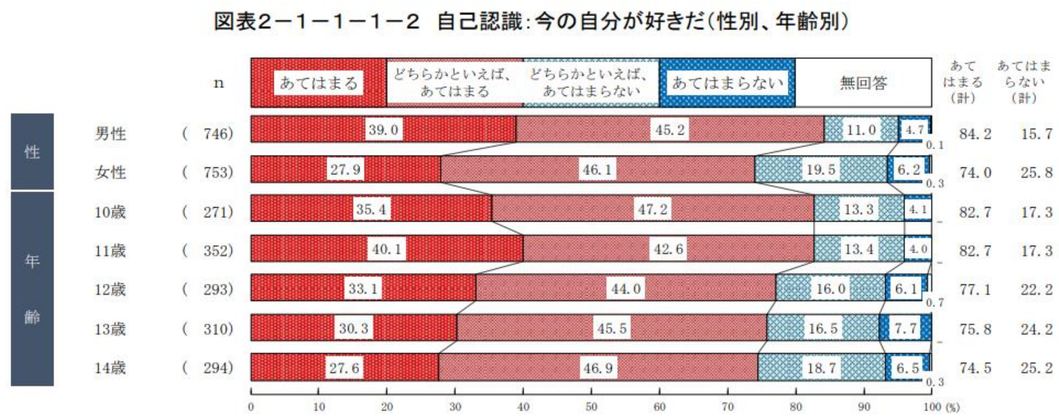
愛媛大学大学院　教育学研究科　教育実践高度化専攻　教育実践開発コース　西村幸大
連絡先：k204012z@mails.cc.ehime-u.ac.jp
指導教員　城戸茂　藤原一弘

１　研究の背景

文部科学省の発表では、2022年度における小中学校の不登校児童生徒数は29万9048人となり過去最多となった。中学校での不登校生徒の出現率は約6%となっており、1クラスに複数名の不登校生徒がいる現状である。不登校の要因は複合的かつ多様なため、個別最適な支援が必要となる。また、内閣府の調査で学年が上がるにつれ、子どもの自己肯定感が低くなる傾向にあることが分かった。報告者は別室登校生と過ごしていく中で、不登校児童生徒はさらに自己肯定感の数値が低いのではないかと考えた。『生徒指導提要』においても、別室登校生の自己肯定感を向上させることは重要だと述べられている。本報告では公立中学校の別室登校生に対し、自己肯定感を高めることに視点を当てた支援を行い、その有効性を検証する。



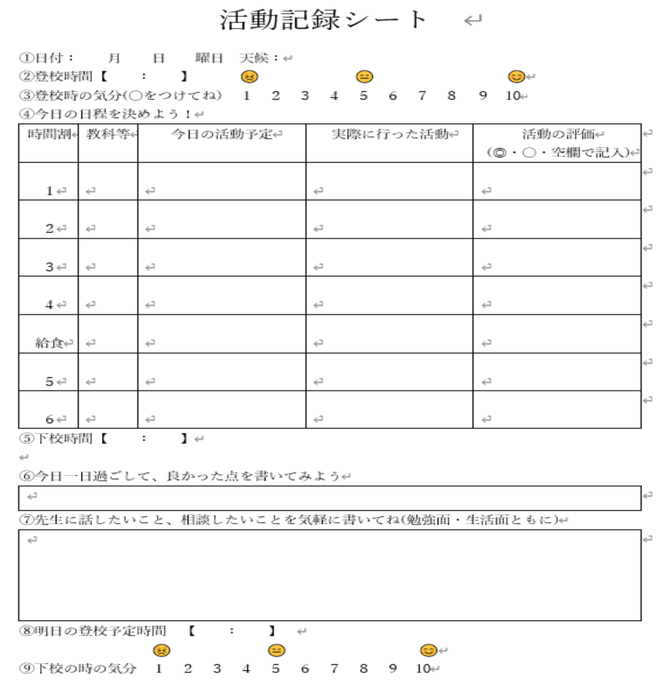
文部科学省(2023)「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」より引用
https://www.mext.go.jp/content/20231004-mxt_jidou01-100002753_1.pdf　(最終閲覧日：2024年1月16日)



内閣府(2023)「こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」より引用
https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12772297/www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/r04/pdf/s2-1.pdf　(最終閲覧日：2024年1月16日)

２　研究の目的・方法

目的：別室登校生の自己肯定感が高まる支援方法の模索
対象校：X市の公立Y中学校(別室登校生は計12名)
対象生徒：3年生女子2名(A子・B子)
実施方法：スポーツやゲーム、学級活動等を基に「活動記録シート」を用いた、生徒による評価の検証と聞き取り調査
Q.　活動記録シートとは？
報告者が作成した、生徒に毎日記入してもらうシート
①日付　②登校時間　③登校時の気分(10段階)　④今日の日程　⑤下校時間
⑥その日の良かった点　⑦相談等　⑧明日の登校予定時間
⑨下校時の気分(10段階評価)　の項目がある。

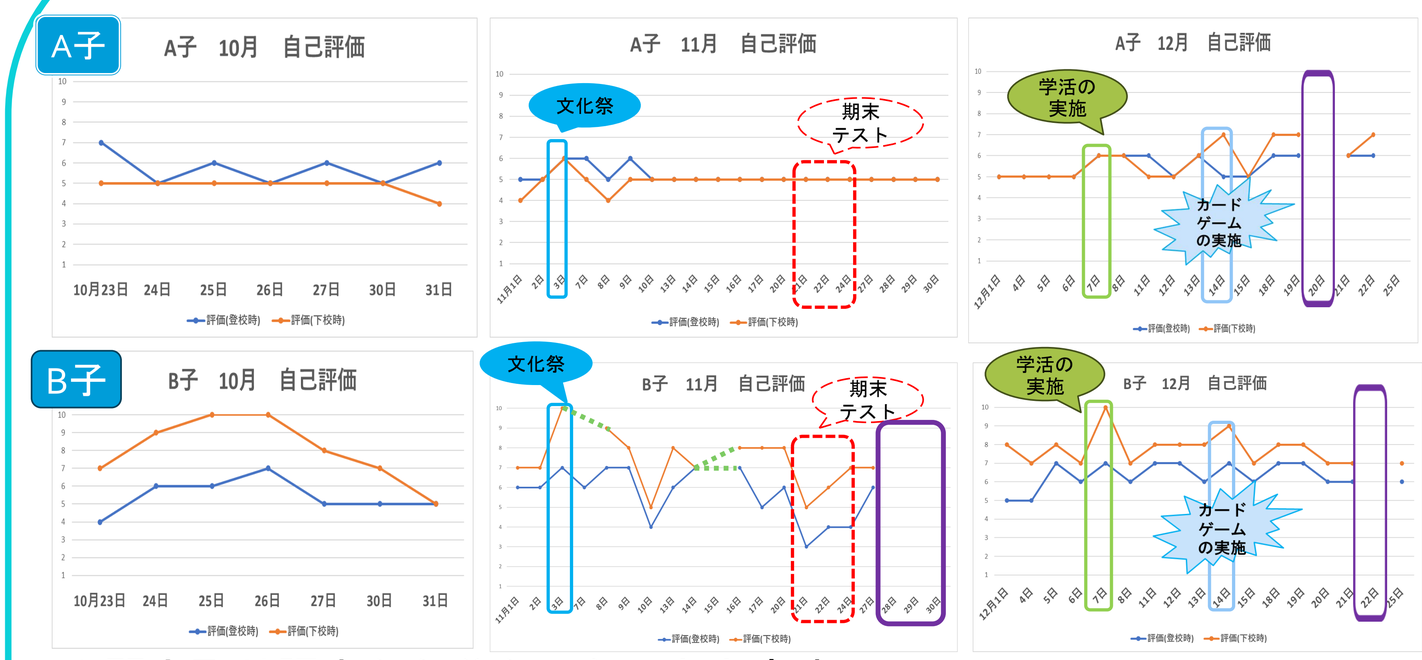

活動記録シート

①日付：　月　日　曜日　天候：
②登校時間【　：　】
③登校時の気分(○をつけてね)　1　2　3　4　5　6　7　8　9　10
④今日の日程を決めよう！

時間割	教科等	今日の活動予定	実際に行った活動	活動の評価（◎・○・空欄で記入）
1				
2				
3				
4				
給食				
5				
6				

⑤下校時間【　：　】
⑥今日一日過ごして、良かった点を書いてみよう
⑦先生に話したいこと、相談したいことを気軽に書いてね(勉強面・生活面ともに)
⑧明日の登校予定時間　【　：　】
⑨下校の時の気分　1　2　3　4　5　6　7　8　9　10

３　結果・考察　　図：A子・B子の月別自己評価(紫枠は欠席、緑点線は未記入)



○活動記録シートから分かること
・12月14日にカードゲームを実施した結果、A子、B子ともに下校時の数値が上昇した。
・学校行事や学級活動では、Ａ子Ｂ子の数値の変化に差異がある。
⇒A子は大きな変化が見られず、Ｂ子は大幅に数値が上昇する傾向にある。
・普段の日から登下校時の数値があまり変化しないA子と、上昇傾向にあるB子に分別された。
⇒B子に関しては、聞き取り調査にて要因が分かる。

○聞き取り調査から分かったことと考察
・12月14日実施のカードゲームは、A子B子を含めた別室の生徒からの「別室の皆と仲良くないたい」という思いから実現。**子どもたちが主体的に行った活動には、自己肯定感の高まりが関係しているのではないか。**
・B子は基本的に数値が上昇⇒学校に来れば、友達と話したり一緒に活動できるし、弱みをさらけだせる。毎日が楽しい。
・A子の数値がから変化なし(11月9日～12月7日)⇒期末テストに対する不安。終了後も結果を見て憂鬱に。
　それでも5を維持⇒学校に行けば、自分のことを理解してくれる友達に会える。
※期末テストのような、子どもたちにとって「苦手」と感じる行事には、自己肯定感が顕著に下がることが分かった。

４　今後の課題

・約3か月分のデータしか取れていない。
　⇒更なるデータの蓄積
・自己肯定感の高まる支援方法の検討

５　参考文献

・文部科学省(2022)『生徒指導提要』東洋館出版社
・伊藤美奈子(2023)『「学校」ってなんだ？　不登校について知る本』学研出版
・高垣忠一郎(2015)『生きづらい時代と自己肯定感「自分が自分であって大丈夫」って？』新日本出版社
・田嶌誠一(2010)『不登校　ネットワークを生かした多面的援助の実際』金剛出版